

国語 第3学年 相手に分かりやすいように、あんないの手紙を書こう 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。この後に貼る指導案を、私の学級に合わせて書き直してください。最初に、児童の既習事項と今の学習状況、読む・書く・話す・聞く際に必要な配慮、学校の年間計画と使える時間、研究授業で確かめたいこと、使える資料と道具を一項目ずつ質問し、回答を待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、次のねらいを保ってください。来てほしい相手に、目的と必要な情報が伝わる案内文を書く。目標・評価規準・単元計画・本時の活動に対応させ、本文を省略せず書き直してください。教材本文・台詞・挿絵・教科書固有の問題文は転載しないでください。教材名と公式の総時数は出典を照合し、独自の時間配分は授業案として区別してください。人数や分数を事実のように補わず、回答がない条件は未確認としてください。児童の反応は予想と明記してください。三重の指導案の見出し順を保ち、先生向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更箇所と、その根拠となった回答・出典を最後に示してください。直す対象の指導案を以下に貼ります。

————ここから直す対象の学習指導案————

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名 「相手に分かりやすいように、あんないの手紙を書こう」 教材名「気持ちをこめて、「来てください」

2 単元の目標

丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。〔知識及び技能〕(1)キ) 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。〔B(1)エ)

来てほしい相手に、目的と必要な情報が伝わる案内文を書く学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。〔知識及び技能〕(1)キ)

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えている。〔B(1)エ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①来てほしい相手に、目的と必要な情報が伝わる案内文を書く学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確認めながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

来てほしい相手に、目的と必要な情報が伝わる案内文を書く。この教材では、修正前後の文章、相手からの質問、直した理由や残した理由を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

教師作成の短い案内で、日時が抜けた文と語が重複した文を比べる。読み手の質問を記録し、書き手が目的を確認して採用する修正を選ぶ。想定する難しさは、誤字だけを見て内容の不足を残す、理由なく友達の文を直す。評価では、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えているかを、修正前後の文章、相手からの質問、直した理由や残した理由と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全4時間）

第1次 第1時：○誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。教師設定の学校の催しを例に、相手・目的・日時・場所・してほしいことを選ぶ。評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2～3時（本時）：○教師設定の学校の催しを例に、相手・目的・日時・場所・してほしいことを選ぶ。案内の下書きを読み合い、必要な情報の抜けと言葉遣いを直す。評価：思①（発言・活動中の記録・作成物）

第3次 第4時：○読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。学習前後の記録を比べて、確かめたことをまとめる。 評価：態①（学習前後の記録と見直しの理由）

6 本時の指導（2／4）

（1）本時の目標

間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。（B(1)エ）

（2）学習過程

【導入】

学習活動：誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。

○「相手が来るために、どんな情報と気持ちを伝える必要がありますか」

【めあて】来てほしい相手に、目的と必要な情報が伝わる案内文を書く。

予想される児童の反応：・自分は知っているが相手には説明が足りない。

指導上の留意点：最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。

【展開】

学習活動：○「相手が来るために、どんな情報と気持ちを伝える必要がありますか」

教師設定の学校の催しを例に、相手・目的・日時・場所・してほしいことを選ぶ。案内の下書きを読み合い、必要な情報の抜けと言葉遣いを直す。

読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。

予想される児童の反応：・自分は知っているが相手には説明が足りない。

・同じことを繰り返している。

・順を変えると出来事が分かる。

指導上の留意点：教師作成の短い案内で、日時が抜けた文と語が重複した文を比べる。読み手の質問を記録し、書き手が目的を確認して採用する修正を選ぶ。

想定する難しさ：誤字だけを見て内容の不足を残す、理由なく友達の文を直す。

評価では、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えているかを、修正前後の文章、相手からの質問、直した理由や残した理由と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

評価：思① 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。（発言・活動中の記録・作成物）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。

修正前後の文章、相手からの質問、直した理由や残した理由を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。

予想される児童の反応：・順を変えると出来事が分かる。

指導上の留意点：教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。

評価：態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「相手が来るために、どんな情報と気持ちを伝える必要がありますか」。中央は、修正前後の文章、相手からの質問、直した理由や残した理由に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

